(第二號)　(附冊一年五月九日第三種郵便物認可)　昭和十六年八月二十五日（月曜日）　臺灣日日新報　第一万四千八百九十三號

臺灣日日新報

本日四頁

共産黨軍徹底覆滅
皇軍一齊に進撃
晉察冀邊區に大殲滅戰

【北京二十四日發同盟】北支軍八月二十四日正午發表

軍は晉冀邊區の共産黨軍覆滅の目的をもつて八月十四日行動を開始した既に冀中南部及び察雲地區における共産黨軍の掃蕩を終り今や一齊に京漢線以西山地地帶の赤色根據地に向ひ進撃中なり

【北京二十四日發同盟】最近の重慶に於ける諸情勢に依り敵が最後の抵抗を試みながら包圍中の山野に潛伏する殘敵を掃蕩する爲冀察邊區東北部及び冀中部東南部に對する第一、第二、第三分區及び冀南第一分區並に冀中第一分區に對し四方より包圍殲滅戰を開始し、敵の殘存兵力を完全に殲滅すべく我が皇軍部隊は八月十四日未明を期し一齊に行動を開始したが、其の概況は次の如し

一、十六日以來現在各包圍區に殘存する敵を掃蕩中の皇軍、大兵團の各部隊は益々東北方に轉じ、十八日夕刻には饒陽（北京西南方百二十粁）附近に進出、同地區を掃蕩、十九日午後大兵部隊（北京西南方約百粁）に進出、同地區は既に包圍遮斷して殘敵を殲滅

社説

臺北市の消防施設強化必要

防衛團改組の次に來るもの

臺北市當局に於ける防衛團改革に關聯して再出發の結成式を擧げ防衛團の改組强化に乘り出した。國民精神の昂揚新たの時期に於て此の團體の内容の改善に關しては現狀のまゝでは甘きに過ぎるとの聲は各方面に於て聞かれる。之を消極に考へて見ても二回に亘る空襲の經驗に徴しても、それが手におへなくなつて防衛團が活動し得ざる場合に當面する火勢猖獗となる場合に當面するのが即ち市の消防である。もしたゝならない。消防ポンプその他消防組織の改善擴充は勿論であるが、消防の人員の如きも現在の儘では到底不充分であるといはねばならない。

市當局の發表によれば、現在の消防組は明治三十五年に於ける消防組の内容が依然として殆ど變つてゐないのである。然るに現在の市の人口は當時の人口の五倍に近く增加し、市街地に於ても、當時の如きは僅かに一部に過ぎず、殆ど全市に亘つて家屋が櫛比し、人口の密集度は當時の數倍に達してゐる。又當時の消防組は僅かに六箇所に過ぎなかつたものであるが、當時の人口の五倍に近い增加と市街に於ても、當時の如くたゞ單に消防の組織があるといふだけでは、到底その任務を果すことは出來ないのである。

現在の消防組織の缺陷は、これを擧げれば數へ盡すことは出來ないが、先づ第一に消防組織の基礎單位である消防區の區劃が甚だ不合理であつて、消防區の區劃は明治三十五年に於ける市街地の狀態を基礎として定められたものであるが、當時の人口の五倍に近い增加と市街に於ても、當時の如くたゞ單に消防の組織があるといふだけでは、到底その任務を果すことは出來ないのである。

現在の

衣食住の舊慣打破

十ケ年計畫で模範町村を建設

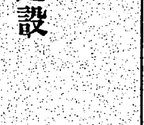
翼贊會で新生活運動

【臺北本社特電】大政翼贊會文化部では新日本文化の下に新國民生活樣式を樹立することになり目下文化部長中心となつて官民各方面に亘り衣食住の舊慣打破に關する意見を聽取しつゝあるが、近く全國に呼びかける筈となつた、即ち

衣食住の改善の問題については、これまで屢々叫ばれ打破して來たが、なかなか實行されず、依然として舊慣に囚はれ、非能率的な生活を續けてゐる點が多い、それは從來からの

青年こそは國の寶

臺中 田中 兩奉公青年隊に諭す

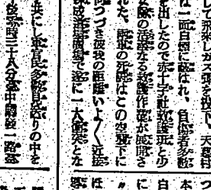


本島青年諸氏の大發奮を望んである

勝つて臺田部隊、三部隊、南水地方、十五聯隊區司令部、竹中部隊兵舍等の建設に當つてゐるが、その勞務奉仕隊として臺中州下各地から參加した青年團員は、實に一萬二千餘名の多數に達してゐる

南方の佛教建直し

日本から法衣の共榮圈尖兵



團杖握りしめ突擊

空からガス彈、兵隊さんと綜合演習

七百健兒の喊聲山を搖がす

營火を圍み少年常會

星空に一夜の秋の調べ樂し

賴母しい增產進軍

長谷川總督の視察感想談

移民村の父猿渡氏を激勵

故山脇部隊長を弔ふ

第七十二部隊葬嚴修

本間軍司令官歸北

西少佐錄紙方面視察

西少佐の妙技臺北でも公開

都市は悉く好目標

敵の空襲圈內

侍むは日本精神

空襲の實相判斷

防空必勝虎の卷 ①

歐戰渦中へ逸る心

小林アフガニスタン駐剳公使寄臺

晴の卒業公開滑空

僕らも增產戰士

臺北三中 田植ゑ

谷口憲兵少佐着任

奉公委員に異彩

放つ兩女史

夜

ラヂオ

書

名地綵谷版

奉仕人員廿萬突破

日輪含に倣ふ州民道場近く着工

炎天下に撓みなき勤勞作業

忠靈塔建設

【臺南特電】嘉義、臺南兩州下に於ける擧國一致の勤勞奉仕隊は、先づ臺南州下に於ける各地の出動狀況を見るに、去る廿日の如きは實に空前の盛況を呈し、其の數實に二十萬人を突破し、午後三時現在の集計に依れば、實に二十萬一千餘人の多數に達し、之れより夜間奉仕隊の參加を見込まれ、尙ほ增加の一路を辿りつゝあり、其の内譯は、臺南市を中心とする市街地方面に於ては、學生、靑年團、婦人會、在鄕軍人會、國防婦人會、各種團體、各官廳、各會社、各工場、各商店等の擧げて參加せるもの多數に上り、又農村方面に於ては、各部落毎に部落會